



2017年7月27日

各位

会社名 アステラス製薬株式会社
代表者 代表取締役社長 CEO 畑中 好彦
コード番号 4503
(URL <http://www.astellas.com/jp>)
東証 (第一部)
決算期 3月
問い合わせ先 広報部長 臼井 政明
Tel: (03)3244-3201

アジェンシス社研究活動の終了のお知らせ

アジェンシス社の抗体-薬物複合体(ADC)開発プログラムは継続

アステラス製薬株式会社(本社:東京、以下「アステラス製薬」)は、連結子会社であるアジェンシス社(英名:Agensys, Inc.、米国カリフォルニア州サンタモニカ)の研究活動を終了することとなりましたので、お知らせします。抗体-薬物複合体(ADC)研究への投資を縮小し、新技術や新治療手段への投資を拡大することで、がん領域戦略を更に発展させていきます。

アステラス製薬の研究本部長である内田渡は、次のように述べています。「アジェンシス社は、がん患者さんに革新的な治療法をお届けするという私達の目標にとって非常に有益でした。研究チームは、臨床で薬効が確認されたADCや抗体関連技術を創製し、それらは当社のがんパイプラインをより強固なものにしてきました。一方で、私たちの研究領域は進化し、最先端の治療選択肢へと展開してきました。高いアンメットメディカルニーズを一層充足し、様々なタイプのがんと闘う患者さんにより多くの革新的なベネフィットを提供できることを期待しています。」

がん治療は常に進化しており、当社が新たながん治療法の開発に成功し続けるためにも、研究領域を進化させる必要があります。また、当社は、経営資源配分および研究ケイパビリティを最適化するため、オペレーションや投資プログラムを常に見直しています。

Seattle Genetic社との提携を含む、現在アジェンシス社で進んでいるADCプログラムに関する主要な臨床試験および提携は継続します。

アジェンシス社研究活動の終了作業は2018年の第1四半期に完了する予定です。

なお、本件によるアステラス製薬の通期(2018年3月期)連結業績への影響は現在精査中です。

以上

注意事項

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述およびその他の過去の事実ではない記述は、アステラスの業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知および未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化および関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品および既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品(開発中のものを含む)に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。